

東海地域におけるびんリユース 推進に向けた取組について



平成29年(2017年)12月12日
東海地域びんリユース推進協議会

東海地域びんリユース推進協議会

◎目的

東海3県(愛知・岐阜・三重)における**びんリユース**を推進し、これが**地域の様々な課題の解消**に貢献する方策を検討・実践することを目的とする。

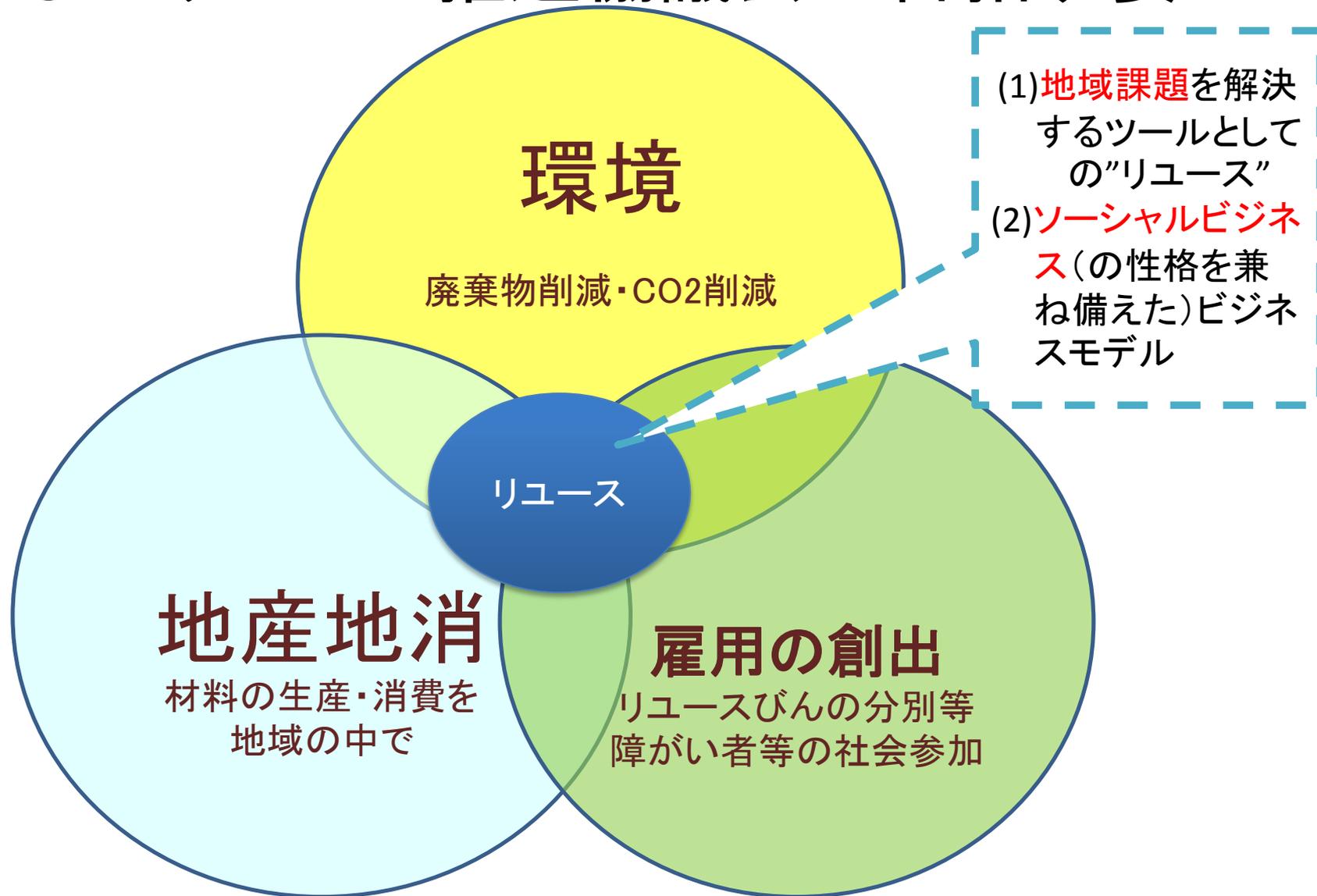
◎構成員

- ・中部壘商連合会
- ・中部リサイクル運動市民の会
- ・名古屋市立大学・名城大学
- ・愛知県酒造組合
- ・びんリユース推進全国協議会
- ・新日本流通株式会社
- ・環境省中部地方環境事務所

◎オブザーバー

- ・愛知県
- ・名古屋市

持続可能な社会に向けて東海地域 びんリユース推進協議会が目指す姿



25年度

- びんリユース関連事業者へのアンケート
- びんリユース推進シンポジウム
- 東海地域びんリユース推進協議会準備会設立

26年度

環境(廃棄物・CO2)の観点から

- 東海地域びんリユース推進協議会設立
- リユースビジネスモデルの検討と検証
- 上記ビジネスモデルの実証実験(酒蔵・飲食店・壺商)

27年度

環境×経済(地産地消)の観点から

- 26年度試行モデルの課題の検証 →本格実施
- リユースを核とした地域経済・雇用拡大のあり方再考

28年度

環境×経済×社会(雇用の創出)の観点から

- 27年度本格実施モデルの課題の検証→拡大・定着へ
- 東海地域リユースビジネスモデルの展開

29年度

環境×経済×社会(雇用の創出)の観点から

- 先の実証実験結果の総括と次の展開に向けた論点整理
- 東海地域リユースビジネスモデルの展開に向けた組織強化

活動内容一例(実証実験)

料飲店に協力を依頼してリユースびんを使った商品を置いてもらいました

なごやの地酒
リユースびん

鷹の夢 特別純米酒【山盛酒造】

ECOの呑み〜

リユースびんとは?

リユースびんとは、リユースびんを使用した商品です。リユースびんを使用した商品は、リユースびんを使用した商品です。リユースびんを使用した商品は、リユースびんを使用した商品です。

なごやの地酒でリユースびん ECO呑み〜

めぐる 限定純米酒【水谷酒造】

新酒醸造直後のもみ由米のフルーティーな香りと、酒造でしか味わえないフレッシュな美味しさが詰まっています。

リユースびんとは?

リユースびんとは、リユースびんを使用した商品です。リユースびんを使用した商品は、リユースびんを使用した商品です。リユースびんを使用した商品は、リユースびんを使用した商品です。

エコだで呑んでみやー

なごやの地酒

期間限定 2月に無くなり次第終了

めぐる 限定純米酒【水谷酒造】
新酒醸造直後のもみ由米のフルーティーな香りと、酒造でしか味わえないフレッシュな美味しさが詰まっています。

鷹の夢 特別純米酒【山盛酒造】
落し着きのあるほどよい香りと、すっきりとした旨みのある味わいです。

¥ 550 (一杯) (税抜)

¥ 550 (一杯) (税抜)

地球環境基金の助成事業で行っております。

活動内容一例(ワークショップ)

料飲店に協力を依頼し、リユースびんを使用したお酒を飲みながら議論を交わしました

名古屋から

びんビンBegin

～地酒×リユースびん～未来～

平成28年11月17日(木) 19:00～21:00
18:00より受付開始

尾張の地酒「めぐる」「奏(かなで)」とともに、
身近な地産地消を楽しみながら
びんリユースの今後を考えてみましょう。



会場
GREEN ROOM
愛知県名古屋市中川区川島3丁目102
TEL 052-304-0318

参加費
3,000円(税込)

申し込み方法
氏名、年齢、業種の欄の交通手段(徒歩、自転車など)を
明記のうえ、以下のアドレスにメールでお申し込みください。
先着20～25名様
mail: binbinbegin@gmail.com
お問い合わせ: 中部商連合会(南栄田商店内 担当: 星原)
TEL 052-381-6201 FAX 052-381-6205

ワークショップスケジュール

19:00～19:30	1. 開会挨拶 2. 趣旨説明 3. 水谷清造挨拶 水谷清造様代表取締役 水谷政夫 氏 4. びんリユースの説明
19:30～20:50	食事しながら グループワーク
20:50～21:00	まとめ 閉会

※「数表掲載」と「20歳未満の方の飲酒」は法律で禁止されています。



これまで(4年間)の活動で できたこと・できなかったこと

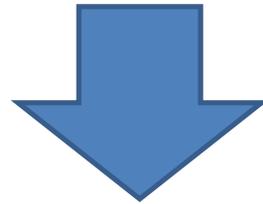
できたこと

- ・シンポジウム・WS等の開催
- ・実証実験
- ・名城大学の学生サークルや名古屋クラウドとの交流
- ・マスコットの開発
- ・納屋橋夜イチでのリユースPR活動

できなかったこと

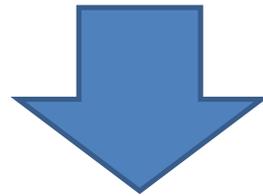
- ・協議会に卸業者を取込むこと
- ・実証実験モデルの拡大と本格的展開
- ・空きびん回収のシステムの構築
- ・活動の情報発信のツール開発

・実証実験を行ったが、空きびん回収のシステムが構築出来なかった



なぜ？

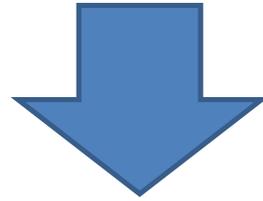
・卸業者の協力が得られなかった



なぜ？

・卸業者にとって、びんリユースは現状では経済的にメリットがない

- ・活動の情報発信のツール開発ができない



なぜ？

- ・「見せ方」のアイデアが貧弱
- ・情報発信の対象が多様である



なぜ？

- ・協議会の組織構成がまだ不十分
- ・資金確保が十分にできていない

次の展開に向けて

➤ 全国協議会との連携

- 東海地域から全国協議会ボードメンバーに参画し、より緊密な推進体制を図る
- 他の地域の先進取組の研究と経験交流の活発化を図る
- 資金確保面での協力

➤ 情報発信

- びんリユースに関する情報発信のツールができていない
- 情報の「見せ方」のアイデアが貧弱
- 卸売業者をはじめとする多様な主体の参画がまだ不自由分

上記2つの論点は「名古屋モデル」「東海モデル」の本格展開のために不可欠

リユースの「メリット」って何？情報発信の方法は？これを明確にしなければならない！